

ネギ原種審査会を開催しました

野菜作物研究部

平成17年12月5日、当センターで、日本種苗協会主催のネギ（一本太・秋冬どり）原種審査会が開催されました。全国の種苗メーカーから寄せられた21系統について、全国から集まった種苗関係者によって厳正な審査が行われました。

昨年は11月末まで平年より気温が高く推移しましたが、アザミウマ類の防除を徹底し、土寄せなど管理を適期に行った結果、順調に生育しました。審査は収穫前の草姿について100点、葉を4枚に調製した収穫物については300点満点で採点し、総合得点の高いものから順位をつけました。

表1 入賞品種・系統

順位	育成者	品種・系統名
1等特	株サカタのたね	K2-28
2等	株サカタのたね	KO-22
3等	タキイ種苗(株)	TN-0501
3等	株武蔵野種苗	MSI-857
3等	野原種苗(株)	NS-0180



ネギ（一本太・秋冬どり）原種審査会の様子

出品された系統はみな一代交配種で揃いがよいため、産地の省力化、省コスト化につながると期待されます。特に、入賞品種は、揃いが良いだけでなく、葉が小振りで、作業性の高さが際立っていました。

「みやこ」カボチャの1果どり栽培

三浦半島地区事務所



横一列に揃った着果状況

三浦半島特産のカボチャ「みやこ」は他品種を追随させぬ食味を誇り好評を得ています。しかし草勢がおとなしく、複数着果させると果実の肥大が鈍ります。そこで、大玉な果実を得るために、着果を制限する「1果どり」栽培を紹介します。

「1果どり」栽培とは…親づる1本仕立てにし、1果実だけ着果させる栽培です。果実が肥大しやすく、着果節位を揃えることで一斉に収穫できます。果実を大玉にするポイントは次のとおりです。

- ・着果節位は15節以上にします。低節位着果は、収穫期は早くなりますが小玉で形も悪くなりがちです。
- ・栽植距離が広い方が果実は肥大します。反収を考慮すると10a当たり約700本となる程度（畦間4m、株間35cm）の密度が良いでしょう（表1）。
- ・摘心は着果節位から10節程度確保して行います（表2）。
- ・若苗を定植した方が果実の肥大性に優れます（表3）。

表1 栽植密度と果重

	着果節位	果重(g)	10a栽植本数	10a収量(kg)
4m×40cm	18.7	1980	625	1234
4m×35cm	18.3	1896	714	1354
3.6m×40cm	18.0	1842	694	1278
3.6m×35cm	18.0	1776	793	1408

※定植日は平成16年4月8日。

表2 摘心節位と果重

条間	着果節位	摘心節位	果重(g)
4m	15.9	5節上	2043
4m	15.5	10節上	2179
3.6m	16.3	5節上	1736
3.6m	16.1	10節上	1949

※各区の摘心節位は、着果節位を含めた上位節数。
※定植日は平成17年4月5日。株間35cm。

表3 定植時の苗令と果重

苗令	着果節位	果重(g)	平均収穫日
32日育苗	15.6	1383	6月15日
25日育苗	16.0	1465	6月15日
18日育苗	15.5	2179	6月21日

※定植日は平成17年4月5日。条間4m株間35cm。